

G C I エンダウメントファンド（成長型／安定型）

追加型投信／内外／資産複合

設定日 : 2015年 9月25日
作成基準日 : 2019年 1月31日
決算日 : 毎年9月25日
(休業日の場合は翌営業日)
信託期間 : 原則として無期限

お知らせ

『Morningstar Award “Fund of the Year 2018”
(モーニングスター ファンド オブ ザ イヤー 2018)』において
G C I エンダウメントファンド（安定型）が

優秀ファンド賞【バランス型 部門】

を受賞しました。



なお、G C I エンダウメントファンド（成長型）は2016年度、2017年度の同賞におきましても、それぞれ
“優秀ファンド賞”及び“最優秀ファンド賞”を受賞し、GCIアセット・マネジメントはこれら2本のファンドの運用会社として
3年連続の受賞となりました。



GCI エンダウメントファンド（成長型／安定型） 追加型投信／内外／資産複合

設定日 : 2015年 9月25日
作成基準日 : 2019年 1月31日
決算日 : 毎年9月25日
(休業日の場合は翌営業日)
信託期間 : 原則として無期限

また、GCIエンダウメントファンド（成長型／安定型）の投資対象であるGCI システマティック・マクロ戦略は、海外におけるヘッジファンドのアワードに於きまして、2018年度は二つの**最優秀賞（Winner）**を受賞致しました。

＜受賞対象ヘッジファンド戦略＞

“GCI システマティック・マクロ戦略” **(GCI Systematic Macro Strategy)**

1. 『THE ASIA HEDGE AWARDS 2018』 (アジアヘッジアワード 2018)

“マネージドフューチャズ／コモディティ／為替”部門



2. 『HFM Hedge Fund Awards Asia 2019』 (HFMヘッジファンド・アジア・アワード 2019)

“マネージドフューチャズ／CTA”部門



GCIエンダウメントファンド（成長型／安定型）には同戦略を用いた外国籍投信である、
“G C I システマティック・マクロファンド Vol10 クラスA”が組み入れられており、
同ファンドのパフォーマンス向上に貢献しております。（または、超過収益獲得に貢献しております。）

GCIエンダウメントファンド（成長型／安定型）

追加型投信／内外／資産複合

設定日：2015年 9月25日
作成基準日：2019年 1月31日
決算日：毎年9月25日
(休業日の場合は翌営業日)
信託期間：原則として無期限

ファンドマネージャーのコメント

＜運用の基本スタンス＞

さまざまな市場環境を乗り越えて、長期間にわたるすばらしい運用実績を残してきたエンダウメント（大学財団）型の投資戦略をお手本に、オルタナティブ投資を積極的に活用したグローバル投資を行います。リスクとリターンを分散・多様化するとともに、運用コストにも注意を払い、運用資産の長期的成長を効率的に目指します。

「GCIエンダウメントファンド」の運用手法はシンプルかつ頑健（Robust）です。原則として年一回、基本資産配分（ターゲット・ポートフォリオ）を決定した上で、適宜リバランスを実行し、資産配分を維持します。また、長期スタンスで円資産のリスク・リターン効率化を図るため、為替リスクは原則としてヘッジします。

基本資産配分（ターゲット・ポートフォリオ）は、想定リスクを成長型で年率8%、安定型で年率5%にセットし、対象資産の流動性やキャパシティ（市場規模）などを吟味して選択した投資対象ユニバースの中で、最良の期待リターンとなるように配分比率を決定します。その時々々の市場動向やムードなどに振り回されず、取引コストを抑制しながら、一定のリスクを効率的に取り続けるという、ブレのない運用姿勢を貫きます。

＜ビッグ・ピクチャーと基本資産配分＞

当ファンドの決算日である2018年9月25日に、一年に一度の基本資産配分（ターゲット・ポートフォリオ）見直しを行いました。その前提となるビッグ・ピクチャーは、10年程度の時間軸でマクロ環境を俯瞰したのですが、次の通り変更ありません。

第一に、21世紀直前に本格化したグローバル化という世界史的イベントに伴い、デスインフレ環境が続いています。グローバル化の恩恵を最大限に享受してきた新興国経済の急成長が成熟してきたこともあり、このデスインフレ環境は長期化するものと考えています。

第二に、新興国圏の成長速度が大きく鈍化した結果、先進国圏と新興国圏の乖離（デカップリング）が金融市場に影響を与える可能性があります。とくに、米国経済が相対的に好調であるとのコンセンサスの下、2014年からドル高基調が続いています。ドル高は、新興国経済にとっては逆風です。1997年のアジア通貨危機がその典型例です。依然として底堅い中国経済ですが、景気循環や人口動態など国内固有の要因に加えて、ドル高という負荷が二重にかかると考えています。

以上の10年単位のビッグ・ピクチャー自体は今回も不変ですが、中期的には、2008年の金融危機以降一貫して続いていた主要国中央銀行の金融政策の変化に注目しています。2009年以降、債券・株式を含むほとんどの資産価格が上昇し続ける特異な環境でしたが、市場に供給された潤沢な資本が吸収される過程で、どのような影響があるのか注視しています。以上のビッグ・ピクチャーをもとに、調整局面の到来に備えて慎重姿勢としてきた基本資産配分を変更せず、引き続き維持いたします。

オルタナティブ投資を得意とする当社の認識では、世界中の利回りが低下し、信用スプレッドがつぶれ、実物など低流動性資産にも大量の資本が向かった結果、流動性プレミアムも失われました。2017年春以降はボラティリティも過去経験したことのない水準まで下落し、基調としては低迷しています。常識的には、大きな反動・調整が入ってもおかしくありません。

一方、情報技術革新の大波はグローバルな実態経済に大きなインパクトを与えようとしています。高値圏を更新している米国株式市場のバリュエーションに対しては警戒感も根強いのですが、こうした警戒感が払拭されるような株高に対する肯定的センチメントが醸成されない限り、むしろ循環的な株高が継続するのかもしれません。

当戦略は、どのような市場環境であっても、下落リスクを想定範囲内に抑制し、資産価値の保全を最優先しながら、長期的安定的な成長を目指してまいります。

GCIエンダウメントファンド（成長型／安定型）

追加型投信／内外／資産複合

設定日：2015年 9月25日
作成基準日：2019年 1月31日
決算日：毎年9月25日
(休業日の場合は翌営業日)
信託期間：原則として無期限

<今月を振り返って>

年明けの1月は、株式市場の下落が加速した昨年10月以降の流れを受けて、「市場対中央銀行」という様相が強まりましたが、結果的には米国FRBの金融引締め観測が大きく後退しました。金融市場には安堵が広がっています。ドルを中心に金利が低下（債券価格は上昇）し、株式などリスク資産も持ち直しましたので、ほぼすべての資産クラスが値上がりしました。

1987年にグリーンSPANFRB議長が就任して以降、ITバブル崩壊やリーマン危機をはじめとする株式市場下落局面には、FRBは市場の期待に応える形で金融緩和方向に動くことから、株式市場を下支えするオプション取引になぞらえて「FEDプット」と呼ばれてきました。そして今回もまた、目的が市場対策か否かはさておき、結果的にそれが踏襲されました。その対価として、各国当局の今後の対応はより難しくなったと思います。なかでも、資本流出懸念に苦しむ中国は一息つくかもしれませんが、袋小路に入った日銀はいよいよ苦しくなりました。

GCIエンダウメントファンドは、P5・P7の資産クラス別の貢献度をご覧ください。すべての伝統資産（株式・債券・リート）が上昇してプラス貢献したものの、最大の特徴であるオルタナティブ戦略が足を引っ張り、小幅な変動にとどまりました。昨秋以降、不冴えな結果が続いているのはここが原因です。

前月ご報告した通り、オルタナティブ戦略として採用している機関投資家専用のGCIシステムティックマクロ・ファンド（GSM）は、年明けのリバランスで、株式下落から収益を上げることができたポジション（株式ショート）に転じていましたので、株式市場の反騰がマイナス要因となりました。足許のような、1～2か月程度の周期で市場の方向感が反転するレンジ相場は、GSMがもっとも苦戦する環境です。動いているようで、じつはもみ合いが続いている現状のような環境では、長期トレンドを捕捉して短期間で収益化するのが難しいからです。

このところの急落や急反発を繰り返す市場環境は、大きなトレンド転換時にはよくあるものですが、なにしろ、長く大きな上昇相場場の転機ですから、次なるトレンドが出てくるまでに時間を要するのは仕方ないと考えています。

今後の展望ですが、株式市場の①回復、②横ばい継続、③（本格的な）下落、という3つのシナリオに分けて、おおまかな見通しをお伝えします。

- ① 株式市場が回復し、実態経済が力強い成長を取り戻すシナリオでは、当戦略もプラスリターンを積み上げることが期待できます。ただし、一般的なバランス型に比較すると劣後するかもしれません。
- ② 株式市場がいまのように上下動を繰り返すレンジ相場は、当戦略にとっては嫌な展開です。なにか大きなポジションが痛む訳ではありませんので、大きなドローダウン（基準価格の下落）につながる可能性は低いのですが、冴えない展開が続く可能性が高くなります。
- ③ 株式市場がもみ合いを抜けて再度下落する場合、当戦略は善戦することが期待できます。その期間にポートフォリオ全体としてプラスリターンを生むかどうかはなんとはいえませんが、一般的なバランス型ポートフォリオと比べると、オルタナティブ戦略が効果を発揮できると考えています。

いまは辛抱強く耐える局面と考えていますが、人間の定性判断を排した投資判断フレームワークに基づき、大きな短期的ドローダウンを極力回避しながら、長期的にリターンを積み上げていくという姿勢でぶれない運用を続けてまいりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。



ファウンダー・代表取締役CEO
山内英貴

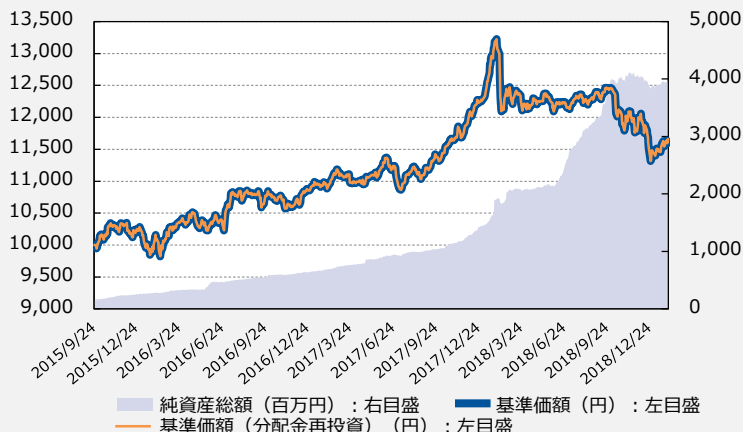
GCIエンダウメントファンド（成長型／安定型）

追加型投信／内外／資産複合

設定日：2015年 9月25日
 作成基準日：2019年 1月31日
 決算日：毎年9月25日
 （休業日の場合は翌営業日）
 信託期間：原則として無期限

GCIエンダウメントファンド（成長型）

基準価額の推移



※ データは、設定日から作成基準日までを表示しています。
 ※ 基準価額（分配金再投資）は、分配金（税引前）を再投資したものと計算しています。
 ※ 基準価額は、信託報酬控除後の値です（後述のファンドの費用をご覧ください。）。

基準価額、純資産総額

	当月末	前月末
基準価額	11,658円	11,483円
純資産総額	3,971百万円	3,889百万円

期間別騰落率

	騰落率
1ヵ月	+1.52%
3ヵ月	-1.50%
6ヵ月	-5.33%
1年	-11.08%
3年	+16.50%
設定来	+16.58%

※ ファンドの騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものと計算しています。

分配の推移（1万口当たり、税引前）

設定来分配金合計額 0円

決算期	2016年9月期	2017年9月期	2018年9月期
分配金	0円	0円	0円

※ 運用状況によっては、分配金額が変わる場合、または分配金が支払われない場合があります。

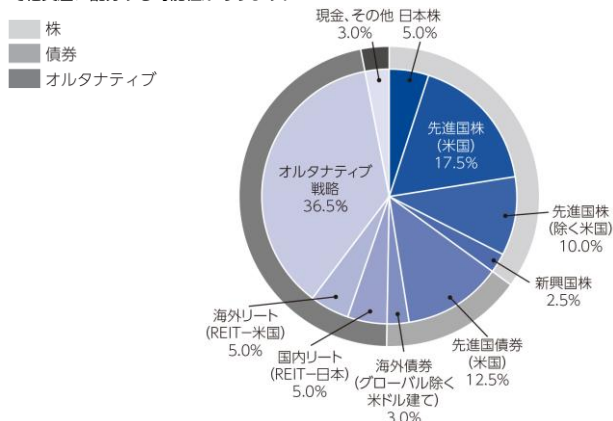
参考指標

	ファンド	東証株価指数（TOPIX）	NOMURA-BPI総合インデックス
年率リターン	+4.8%	+5.2%	+1.6%
標準偏差	6.4%	19.3%	2.2%
下方偏差	7.1%	20.5%	2.2%
シャープレシオ	0.75	0.27	0.77
ソルティノレシオ	0.68	0.26	0.76
最大ドローダウン	-14.4%	-25.4%	-4.5%
相関	—	0.57	-0.07

※参考指標は全て円ベース。当ファンド設定来の期間で算出。年率リターン・標準偏差・下方偏差は1年を250日として計算。時点：2019年1月31日。

基本資産配分（作成基準日時点）

※2018年9月に、基本資産配分の見直しを行いました。現金、その他への配分は、今後市場環境等に応じて他資産に配分する可能性があります。



資産クラス	基本資産配分比率
日本株	5.0%
先進国株（米国）	17.5%
先進国株（除く米国）	10.0%
新興国株	2.5%
先進国債券（米国）	12.5%
海外債券（グローバル除く米ドル建て）	3.0%
国内リート（REIT-日本）	5.0%
海外リート（REIT-米国）	5.0%
オルタナティブ戦略	36.5%
現金、その他	3.0%
合計	100.0%

GCIエンダウメントファンド（成長型／安定型）

追加型投信／内外／資産複合

設定日：2015年 9月25日
 作成基準日：2019年 1月31日
 決算日：毎年9月25日
 （休業日の場合は翌営業日）
 信託期間：原則として無期限

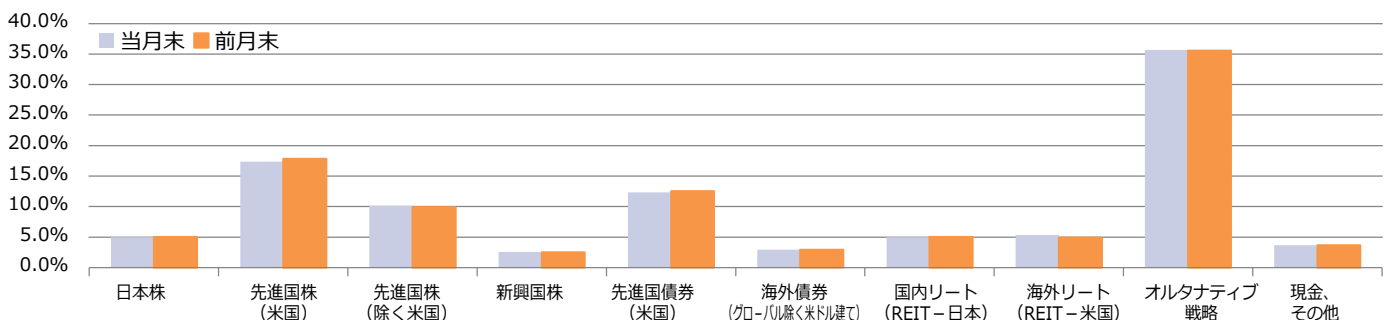
GCIエンダウメントファンド（成長型）

投資対象ファンド（投資信託証券）の状況

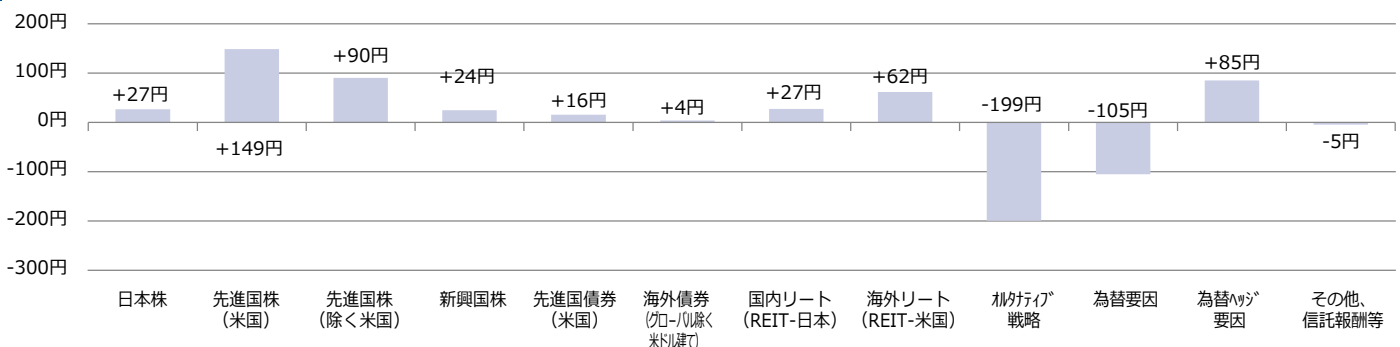
資産クラス	投資対象ファンド（投資信託証券）			
	名称 ベンチマーク	配分比率	月間騰落率	月間寄与額 （概算値）
日本株	TOPIX連動型上場投資信託	5.0%	+4.8%	+27
	TOPIX（東証株価指数）	—	+4.9%	—
先進国株（米国）	バンガード・S&P500 ETF	17.4%	+7.9%	+149
	S&P500指数	—	+7.7%	—
先進国株（除く米国）	バンガード・FTSE先進国市場（除く米国）ETF	10.1%	+8.4%	+90
	FTSE先進国オールキャップ（除く米国）インデックス	—	+8.1%	—
新興国株	バンガード・FTSE・エマージング・マーケットETF	2.6%	+9.1%	+24
	FTSEエマージング・マーケット・オールキャップ（含む中国A株）インデックス	—	+7.8%	—
先進国債券（米国）	バンガード・米国トータル債券市場ETF	12.3%	+1.1%	+16
	ブルームバーグ・バークレイズ米国総合浮動調整インデックス	—	+0.7%	—
海外債券 （グローバル除く米ドル建て）	バンガード・トータル・インターナショナル債券ETF（米ドルヘッジあり）	2.9%	+1.1%	+4
	ブルームバーグ・バークレイズ・グローバル総合（米ドル除く）浮動調整 RIC基準インデックス（米ドルヘッジベース）	—	+0.7%	—
国内リート（REIT－日本）	NEXT FUNDS 東証REIT指数連動型上場投信	5.0%	+4.9%	+27
	東証REIT指数	—	+4.7%	—
海外リート（REIT－米国）	バンガード・リアル・エステート ETF	5.4%	+11.4%	+62
	MSCI US Investable Market Real Estate 25/50 Transitionインデックス	—	+11.2%	—
オルタナティブ戦略	GCIシステムティック・マクロファンド Vol10 クラスA	35.7%	-4.8%	-199
	ベンチマークなし	—	—	—
現金、その他	現金、コール・ローン等	3.6%	0.0%	0

※ 上記は、当ファンドの組入対象であるそれぞれの投資対象ファンド（投資信託証券）とその基準価額の月間騰落率です。当ファンドに対する寄与額は概算値です。
 上記の月間騰落率の計算に用いる基準価額は、分配金（税引前）を再投資したものです。
 上記の月間騰落率の計算に用いる基準価額は、信託報酬控除後の値です。
 上記の月間騰落率は、GCIエンダウメントファンド（成長型）の基準価額の算出方法に合わせて、円ベースに換算した数値です。

配分比率



各資産の寄与額（概算）



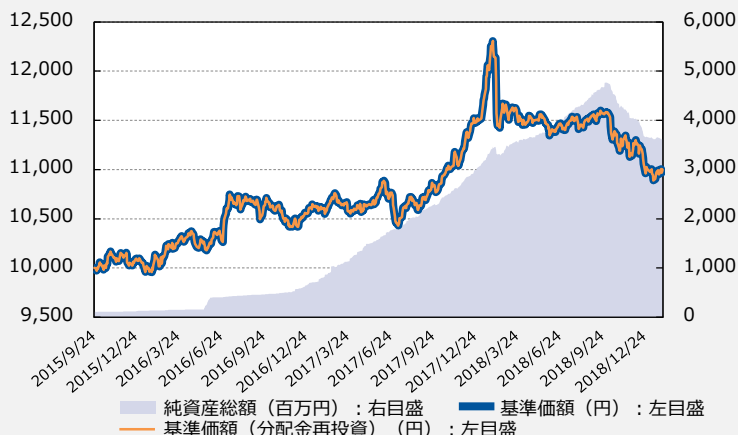
GCIエンダウメントファンド（成長型／安定型）

追加型投信／内外／資産複合

設定日：2015年 9月25日
 作成基準日：2019年 1月31日
 決算日：毎年9月25日
 （休業日の場合は翌営業日）
 信託期間：原則として無期限

GCIエンダウメントファンド（安定型）

基準価額の推移



※ データは、設定日から作成基準日までを表示しています。
 ※ 基準価額（分配金再投資）は、分配金（税引前）を再投資したものと計算しています。
 ※ 基準価額は、信託報酬控除後の値です（後述のファンドの費用をご覧ください。）。

基準価額、純資産総額

	当月末	前月末
基準価額	11,000円	11,008円
純資産総額	3,619百万円	3,664百万円

期間別騰落率

	騰落率
1ヵ月	-0.07%
3ヵ月	-1.71%
6ヵ月	-4.36%
1年	-9.94%
3年	+9.68%
設定来	+10.00%

※ ファンドの騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものと計算しています。

分配の推移（1万口当たり、税引前）

設定来分配金合計額 0円

決算期	2016年9月期	2017年9月期	2018年9月期
分配金	0円	0円	0円

※ 運用状況によっては、分配金額が変わる場合、または分配金が支払われない場合があります。

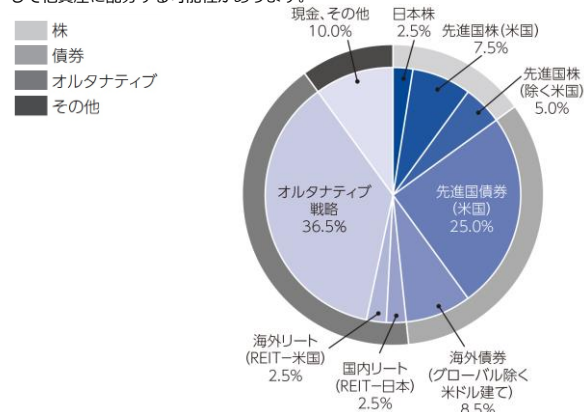
参考指標

	ファンド	東証株価指数（TOPIX）	NOMURA-BPI総合インデックス
年率リターン	+2.9%	+5.2%	+1.6%
標準偏差	4.7%	19.3%	2.2%
下方偏差	5.3%	20.5%	2.2%
シャープレシオ	0.63	0.27	0.77
ソルティノレシオ	0.57	0.26	0.76
最大ドローダウン	-11.5%	-25.4%	-4.5%
相関	—	0.57	-0.07

※ 参考指標は全て円ベース。当ファンド設定来の期間で算出。年率リターン・標準偏差・下方偏差は1年を250日として計算。時点：2019年1月31日。

基本資産配分（作成基準日時点）

※ 2018年9月に、基本資産配分の見直しを行いました。現金、その他への配分は、今後市場環境等に応じて他資産に配分する可能性があります。



資産クラス	基本資産配分比率
日本株	2.5%
先進国株（米国）	7.5%
先進国株（除く米国）	5.0%
先進国債券（米国）	25.0%
海外債券（グローバル除く米ドル建て）	8.5%
国内リート（REIT-日本）	2.5%
海外リート（REIT-米国）	2.5%
オルタナティブ戦略	36.5%
現金、その他	10.0%
合計	100.0%

GCIエンダウメントファンド（成長型／安定型）

追加型投信／内外／資産複合

設定日：2015年 9月25日
 作成基準日：2019年 1月31日
 決算日：毎年9月25日
 （休業日の場合は翌営業日）
 信託期間：原則として無期限

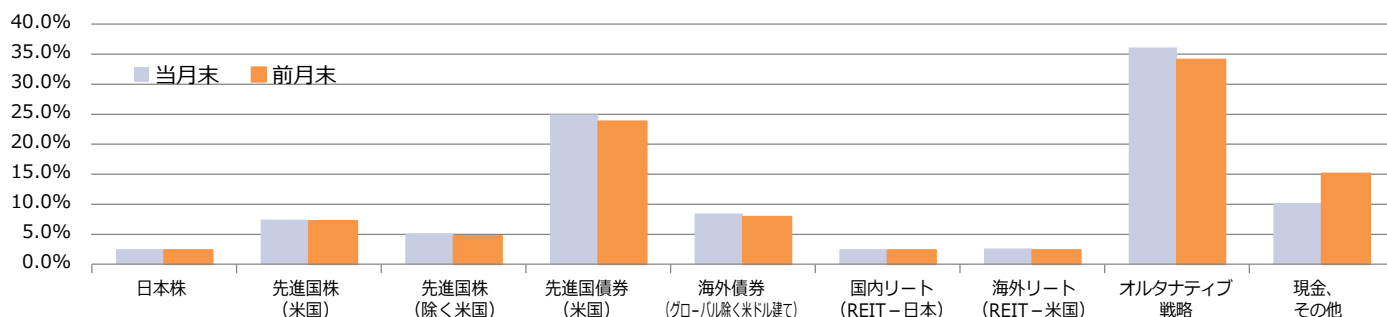
GCIエンダウメントファンド（安定型）

投資対象ファンド（投資信託証券）の状況

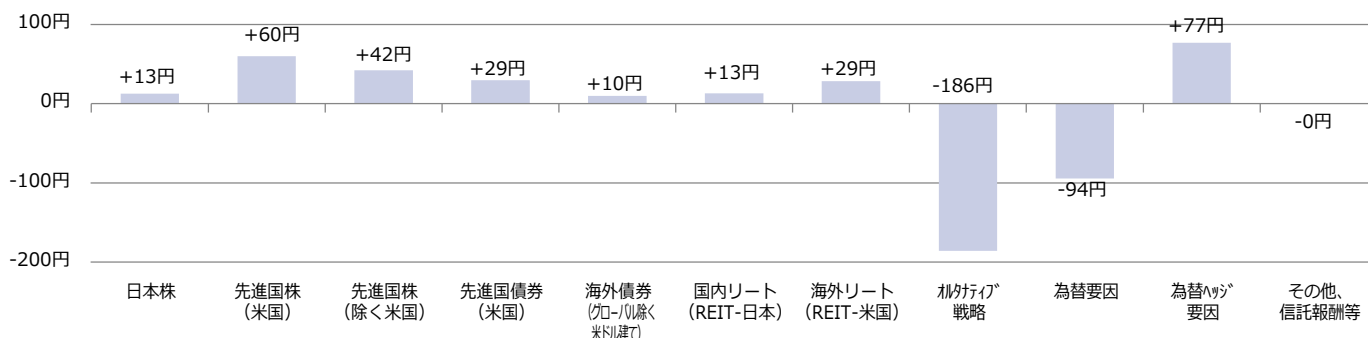
資産クラス	投資対象ファンド（投資信託証券）			
名称	名称 ベンチマーク	配分比率	月間騰落率	月間寄与額 （概算値）
日本株	TOPIX連動型上場投資信託	2.5%	+4.8%	+13
	TOPIX（東証株価指数）	—	+4.9%	—
先進国株（米国）	バンガード・S&P500 ETF	7.4%	+7.9%	+60
	S&P500指数	—	+7.7%	—
先進国株（除く米国）	バンガード・FTSE先進国市場（除く米国）ETF	5.1%	+8.4%	+42
	FTSE先進国オールキャップ（除く米国）インデックス	—	+8.1%	—
先進国債券（米国）	バンガード・米国トータル債券市場ETF	25.0%	+1.1%	+29
	ブルームバーグ・バークレイズ米国総合浮動調整インデックス	—	+0.7%	—
海外債券 （グローバル除く米ドル建て）	バンガード・トータル・インターナショナル債券ETF（米ドルヘッジあり）	8.4%	+1.1%	+10
	ブルームバーグ・バークレイズ・グローバル総合（米ドル除く） 浮動調整 RIC基準インデックス（米ドルヘッジベース）	—	+0.7%	—
国内リート（REIT－日本）	NEXT FUNDS 東証REIT指数連動型上場投信	2.5%	+4.9%	+13
	東証REIT指数	—	+4.7%	—
海外リート（REIT－米国）	バンガード・リアル・エステート ETF	2.6%	+11.4%	+29
	MSCI US Investable Market Real Estate 25/50 Transitionインデックス	—	+11.2%	—
オルタナティブ戦略	GCIシステマティック・マクロファンド Vol10 クラスA	36.1%	-4.8%	-186
	ベンチマークなし	—	—	—
現金、その他	GCIマネーボールマザーファンド	6.4%	0.0%	0
	ベンチマークなし	—	—	—
	現金、コール・ローン等	3.8%	0.0%	0

※ 上記は、当ファンドの組入対象であるそれぞれの投資対象ファンド（投資信託証券）とその基準価額の月間騰落率です。当ファンドに対する寄与額は概算値です。
 上記の月間騰落率の計算に用いる基準価額は、分配金（税引前）を再投資したものです。
 上記の月間騰落率の計算に用いる基準価額は、信託報酬控除後の値です。
 上記の月間騰落率は、GCIエンダウメントファンド（安定型）の基準価額の算出方法に合わせて、円ヘッジベースに換算した数値です。

配分比率



各資産の寄与額（概算）



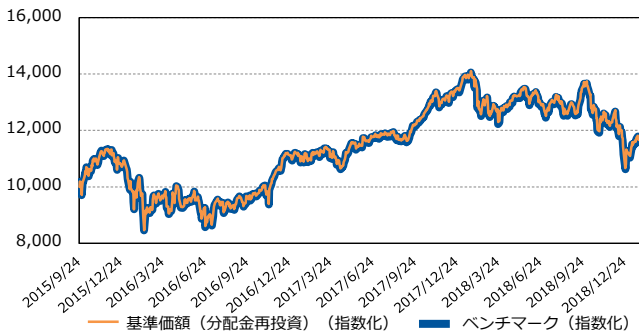
GCIエンダウメントファンド（成長型／安定型）

追加型投信／内外／資産複合

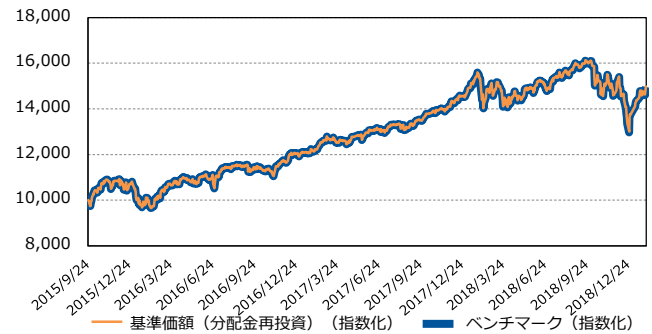
設定日 : 2015年 9月25日
 作成基準日 : 2019年 1月31日
 決算日 : 毎年9月25日
 (休業日の場合は翌営業日)
 信託期間 : 原則として無期限

投資対象ファンド（投資信託証券）－上場投資信託（ETF）の基準価額推移

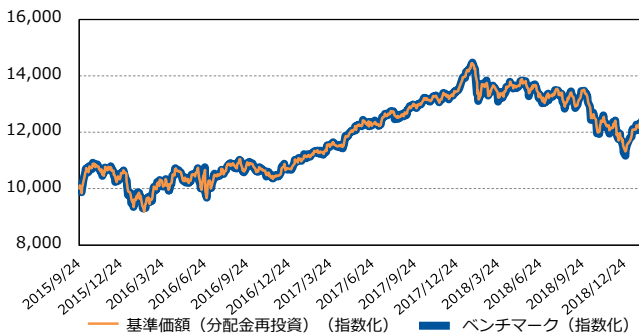
(1) TOPIX連動型上場投資信託



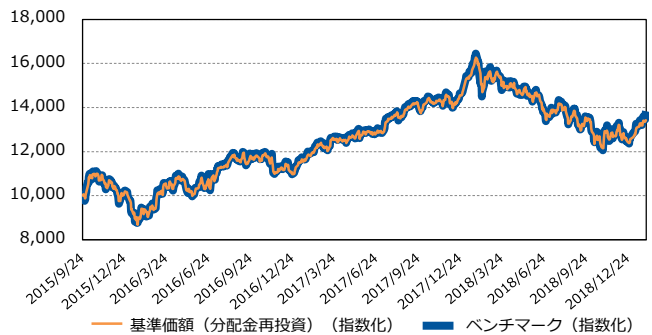
(2) バンガード・S&P500 ETF



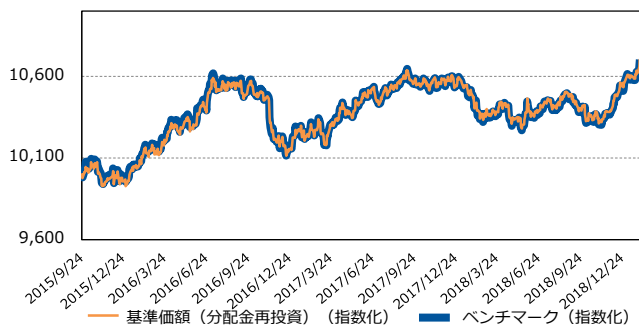
(3) バンガード・FTSE先進国市場（除く米国）ETF



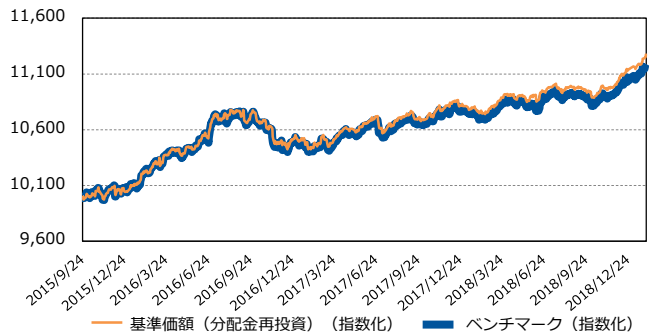
(4) バンガード・FTSE・エマージング・マーケットETF



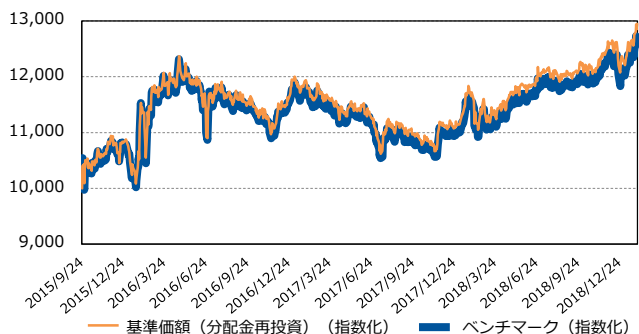
(5) バンガード・米国トータル債券市場ETF



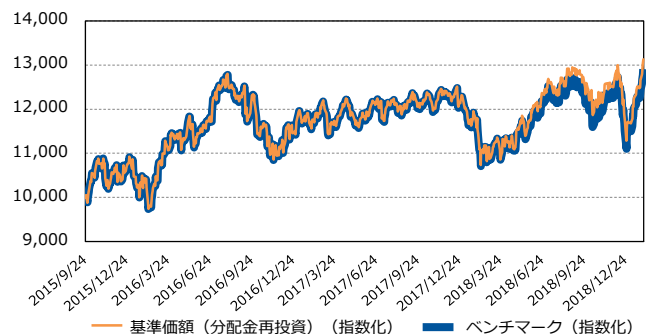
(6) バンガード・トータル・インターナショナル債券ETF（米ドルヘッジあり）



(7) NEXT FUNDS 東証REIT指数連動型上場投信



(8) バンガード・リアル・エステート ETF



※ 上記グラフは、当ファンドの組入対象であるそれぞれの上場投資信託（ETF）の基準価額を、組入開始日を10,000として指数化し、作成基準日までを表示したものです。
 ※ 基準価額（分配金再投資）は、分配金（税引前）を再投資したものと計算しています。
 ※ 基準価額は、信託報酬控除後の値です。

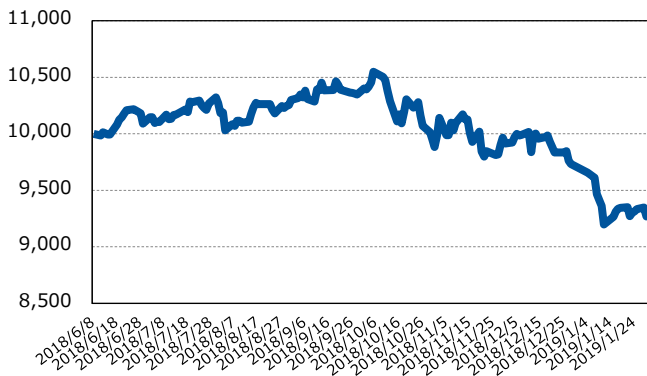
GCI エンダウメントファンド（成長型／安定型）

追加型投信／内外／資産複合

設定日 : 2015年 9月25日
 作成基準日 : 2019年 1月31日
 決算日 : 毎年9月25日
 (休業日の場合は翌営業日)
 信託期間 : 原則として無期限

投資対象ファンド（投資信託証券）－GCI システムティック・マクロファンド Vol10 クラスAの資産の状況

基準価額（指数化）の推移



期間別騰落率

	ファンド
1 カ月	-4.84%
3 カ月	-6.29%
6 カ月	-9.82%
1 年	-
3 年	-
組入開始来	-7.38%

※ 上記グラフは、「GCI システムティック・マクロファンド Vol10 クラスA」の当ファンド計上日ベースの基準価額を、当ファンドへの組入開始日を10,000として指数化し、作成基準日までを表示したものです。
 ※ 基準価額は、信託報酬控除後の値です。

2018年6月に、GCIシステムティック・マクロファンド Vol25 クラスAからGCIシステムティック・マクロファンド Vol10 クラスAへ投資対象の変更を行いました。両ファンドはボラティリティ水準が異なるものの実質的な運用内容は同一であり、当変更はポートフォリオ構成の単純化を目的としたもので、GCIエンダウメントファンド（成長型/安定型）の運用内容を変更するものではありません。また当変更の際にファンドに手数料等の追加負担は発生しておらず、変更によるパフォーマンスへの影響は軽微となっています。

GCI エンダウメントファンド（成長型／安定型）

追加型投信／内外／資産複合

設定日 : 2015年 9月25日
 作成基準日 : 2019年 1月31日
 決算日 : 毎年9月25日
 (休業日の場合は翌営業日)
 信託期間 : 原則として無期限

ポートフォリオの状況

当月も独自開発の動的ポートフォリオ・モデルに基づき、世界各国の株式市場・債券市場・為替市場へ分散投資を行いました。

当月は月間を通じて-4.84%のリターンとなりました。前月まで続いた株価の下落を収益化すべく株式の売りポジションが構築されていましたが、当月の株価の反発により主に損失が発生しました。また、これまで米金利上昇を収益化すべく取られていた米国債の売りポジションからも損失が発生しました。その一方、日本国債や欧州国債の買いポジションが損失を低減しました。

足下では、グローバル金融市場において資産価格の方向感が急ピッチでスイッチするような動きとなっております。年末年始の季節性が影響していた部分もありますが、当戦略は資産価格の明確な方向感を収益源としているため、収益をあげづらい動きが実現してきました。また、資産価格間の相関関係を活用して損失を低減することを目指していますが、足下の市場環境で相関性も安定しない状況となっております。そのような中で、安定感な動きを示している日本国債の買いポジションが当戦略の主要なポジションとなる見込みです。これは、そのポジション単体で収益を積極的に目指すポジションというよりは、多くの市場で不透明感が漂い、方向感がはっきりしない中で逃避先として選択されているような状況です。金利上昇時にこのポジションからの損失を抑制するポジションとして米ドルの買いポジションが組み込まれています。今後も市場環境の変化に対しては、機動的にポートフォリオが入れ替えられていきます。

文責：GCIシステマティック・マクロファンド 運用チーム

参考指標

	GCI システマティック・マクロファンド Vol10 クラスA	HFRX Global Hedge Fund	HFRX Macro: Systematic Diversified CTA
年率リターン	-	-1.8%	-4.4%
標準偏差	-	3.5%	9.1%
下方偏差	-	3.7%	9.5%
シャープレシオ	-	N/A	N/A
ソルティノレシオ	-	N/A	N/A
最大ドローダウン	-12.8%	-10.6%	-3.7%
相関	-	-	-

※参考指標は全て円ベース。当ファンドへの組入開始来の期間で算出。年率リターン・標準偏差・下方偏差は1年を250日として計算。時点：2019年1月31日。リスクフリー・レート=LIBOR日本円1カ月。HFインデックスはドル円金利差(LIBOR 1カ月)を勘案し円ベースで算出。シャープレシオ/ソルティノレシオがマイナス値の場合はN/Aで表示。

※GCIシステマティック・マクロファンド Vol10 クラスAは、設定後一年が経過していないため、最大ドローダウン以外の参考指標は記載しておりません。

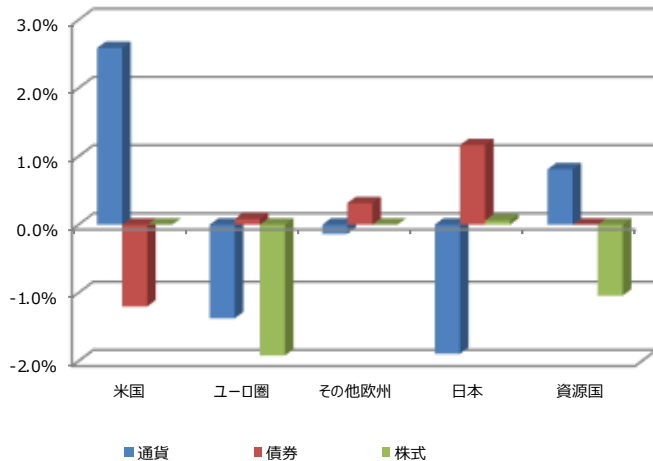
※当月より、下方偏差とソルティノレシオの算出基準を変更しております。

GCI エンダウメントファンド（成長型／安定型）

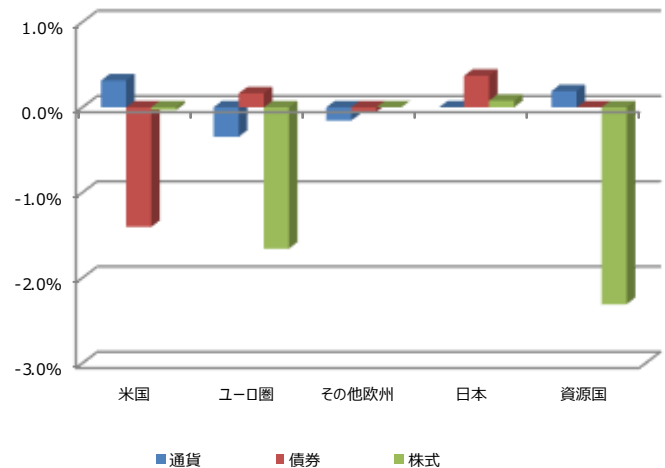
追加型投信／内外／資産複合

設定日：2015年 9月25日
 作成基準日：2019年 1月31日
 決算日：毎年9月25日
 （休業日の場合は翌営業日）
 信託期間：原則として無期限

当月末時点でのポートフォリオ



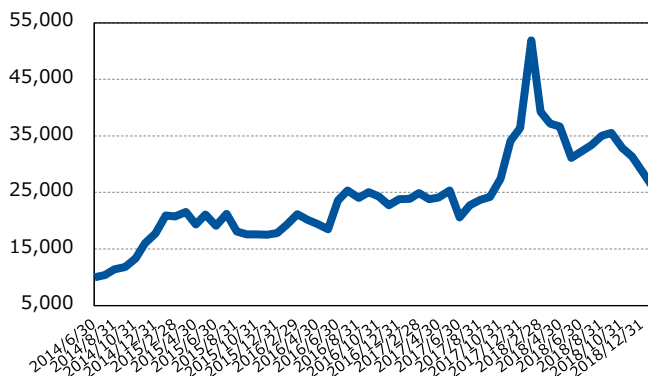
損益内訳



※ 上記ポートフォリオ断面のグラフは、ポジションを構築するにあたって差し入れる証拠金の対純資産総額比率です。マイナスはショートポジションを意味します。証拠金はリスク見合いで差し入れるものであるため、当該指標はポートフォリオにおけるリスクをより実態に近い形で表すものと考えられています。

<ご参考> GCI システマティック・マクロファンドの設定来の運用実績

基準価額（指数化）の推移



※ 上記グラフは、「GCI システマティック・マクロファンド クラスS」の基準価額を、同ファンドの運用開始日を10,000として月次ベースで指数化したものです。クラスAはクラスSと同様の運用を行っていますが、報酬体系等が異なるため、単純な比較はできません。

※ 基準価額は、信託報酬控除後の値です。

参考指標

	GCI システマティック・マクロファンド クラスS	HFRX Global Hedge Fund	HFRX Macro: Systematic Diversified CTA
年率リターン	+23.1%	-0.6%	+0.1%
標準偏差	39.3%	4.1%	8.2%
下方偏差	33.2%	5.0%	8.4%
シャープレシオ	0.59	N/A	0.02
ソルティノレシオ	0.70	N/A	0.01
最大ドローダウン	-50.14%	-8.95%	-11.72%
相関	—	0.32	0.78

※ 参考指標は全て円ベース。「GCI システマティック・マクロファンド クラスS」の設定来の期間における月次リターンを用いて算出。年率リターン・標準偏差・下方偏差は1年を12か月として計算。時点：2019年1月31日。リスクフリー・レート＝LIBOR日本円1か月。HFインデックスはドル円金利差(LIBOR 1か月)を勘案し円ベースで算出。シャープレシオ／ソルティノレシオがマイナス値の場合はN/Aで表示。

※ 当月より、下方偏差とソルティノレシオの算出基準を変更しております。

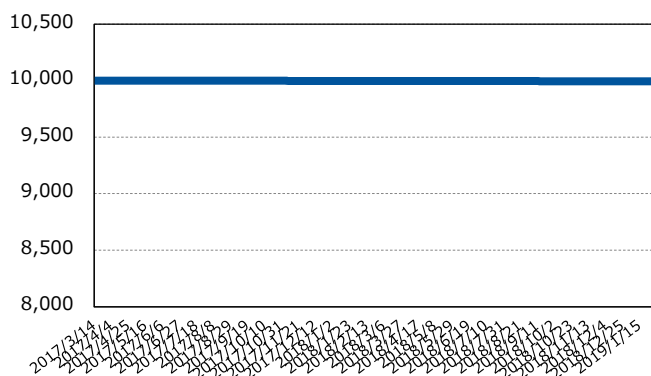
GCI エンダウメントファンド（成長型／安定型）

追加型投信／内外／資産複合

設定日 : 2015年 9月25日
 作成基準日 : 2019年 1月31日
 決算日 : 毎年9月25日
 (休業日の場合は翌営業日)
 信託期間 : 原則として無期限

投資対象ファンド（投資信託証券）－GCI マネープールマザーファンドの状況

基準価額（指数化）の推移



期間別騰落率

	ファンド
1 カ月	0.00%
3 カ月	-0.01%
6 カ月	-0.02%
1 年	-0.04%
3 年	-
組入開始来	-0.06%

※ 上記グラフは、「GCI マネープールマザーファンド」の基準価額を、同ファンドの運用開始日を10,000として月次ベースで指数化したものです。
 ※ 基準価額は、信託報酬控除後の値です。

2017年4月より、GCIマネープールマザーファンドへの投資を開始致しました。

GCIエンダウメントファンド（成長型／安定型） 追加型投信／内外／資産複合

設定日 : 2015年 9月25日
作成基準日 : 2019年 1月31日
決算日 : 毎年9月25日
(休業日の場合は翌営業日)
信託期間 : 原則として無期限

組入資産の市場動向コメント

<株式>

2019年1月のグローバル株式市場は、大きく上昇しました。グローバル株式市場の値動きを示す、MSCI ACWI指数は+7.80%となりました。米中貿易摩擦の解決に向けた交渉が進展するとの期待が広がったことや、FRBが利上げの減速を示唆したことで緩和的な金融政策が期待されたことから、投資家のリスク回避ムードが後退しました。

米国では、米中次官級協議で、中国が米国からの輸入を増やすなど歩み寄る提案を示したことなどが好感され、株式市場は大きく上昇しました。FOMC後の声明でさらなる利上げを急がない方針が示されたことも、株式市場の上昇要因となりました。欧州と日本では、米中協議の進展への期待や、米国の金融引き締めが一旦終了するとの観測から、年末までのリスク回避ムードが後退し株式市場は上昇しました。

<債券>

2019年1月のグローバル債券市場は、総じて上昇しました。投資家のリスク回避の動きは後退しましたが、FRBが利上げに慎重な姿勢を示したことなどが上昇の要因となりました。

米国では、米景気の減速懸念が広がったことや、FOMC後の声明でさらなる利上げを急がない方針が示され、金融引き締めが一旦終了するとの観測が台頭したことで、長期金利が低下し債券は上昇しました。欧州では、EU域内の景気が下振れるとの懸念や、米国の金融政策への観測から、債券市場は上昇しました。日本の債券市場はほぼ横ばいとなりました。

クレジット市場におけるクレジット・スプレッド(企業の信用力を示す、国債に対する上乗せ利回り)は、縮小しました。米中貿易摩擦の解決に向けた交渉が進展するとの期待が広がり、企業業績への懸念が後退したことに加え、前月に拡大した反動もあり、スプレッドは縮小しました。

<不動産投資信託 (REIT) >

2019年1月のREIT市場は、総じて大きく上昇しました。投資家のリスク回避ムードが後退したことに加え、長期金利の低下が追い風となりました。

米国では、FRBが声明で利上げを急がない方針を示したことから長期金利が低下し、また米中協議の進展への期待からリスク回避ムードが後退したことで、REIT市場は大幅に上昇しました。欧州では、米国同様に長期金利の低下とリスク回避ムードの後退を受け、REIT市場は大きく上昇しました。

日本では、長期金利が横ばいとなったため欧米に比較して上昇率は低くなりましたが、好調な不動産市況や株式市場上昇の影響を受け、REIT市場は上昇しました。用途別では、住宅向けがアウトパフォームした一方、オフィス向けはほぼインデックス並みとなり、商業・物流施設向けはアンダーパフォームしました。

<ヘッジファンド市場全般>

2019年1月のヘッジファンド市場は、プラスとなりました。オルタナティブ戦略の代表格であるヘッジファンド市場の値動きを示す、HFRX Global Hedge Fund Indexは、+2.13%となりました。米中協議進展への期待やFRBの利上げ停止観測を受け、世界的にリスク回避ムードが後退する中、株・債券がともに上昇し、先月までとは異なり比較的利益の出しやすい相場となりました。戦略別では、株式ロングショート戦略、イベントドリブン戦略がアウトパフォームした一方、トレンド転換の影響を受けてCTA戦略、グローバルマクロ戦略はアンダーパフォームとなりました。

文責：GCIエンダウメントファンド運用チーム
インベストメント・マネジャー 上野 慎一郎

GCI エンダウメントファンド（成長型／安定型）

追加型投信／内外／資産複合

設定日 : 2015年 9月25日
 作成基準日 : 2019年 1月31日
 決算日 : 毎年9月25日
 (休業日の場合は翌営業日)
 信託期間 : 原則として無期限

投資リスク

基準価額の変動要因

当ファンドは、値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)に投資しますので、ファンドの基準価額は変動します。したがって、**投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。なお、投資信託は預貯金とは異なります。**

当ファンドが有する主なリスク要因は以下の通りです。

株価変動リスク	株価は、発行者の業績、経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化や国内外の経済情勢などにより変動します。株価が下落した場合は、基準価額の下落要因となります。
金利変動リスク	債券などの価格は、一般的に金利低下(上昇)した場合は値上がり(値下がり)します。なお、債券などが変動金利である場合、こうした金利変動による価格の変動は固定金利の場合と比べて小さくなる傾向があります。また、発行者・債務者などの財務状況の変化などおよびそれらに関する外部評価の変化や国内外の経済情勢などにより変動します。債券などの価格が下落した場合は、基準価額の下落要因となります。
REITの価格変動リスク	REITの価格は、不動産市況(不動産稼働率、賃貸料、不動産価格など)、金利変動、社会情勢の変化、関係法令・各種規制などの変更、災害などの要因により変動します。また、REITおよびREITの運用会社の業績、財務状況の変化などにより価格が変動し、基準価額の変動要因となります。
為替変動リスク	為替相場は、各国の経済状況、政治情勢などの様々な要因により変動します。投資先の通貨に対して円高となった場合には、基準価額の下落要因となります。なお、当ファンドおよび投資対象ファンド(投資信託証券)において、外貨建資産について、為替予約を活用し、為替変動リスクの低減を図る場合がありますが、完全にヘッジすることはできませんので、外貨の為替変動の影響を受ける場合があります。また、為替ヘッジを行う通貨の短期金利と円短期金利を比較して、円短期金利の方が低い場合には、当該通貨と円の金利差相当分のコストがかかることにご留意ください。
信用リスク	有価証券等の発行体などが財政難、経営不振、その他の理由により、利払い、償還金、借入金などをあらかじめ決められた条件で支払うことができなくなった場合、またはそれが予想される場合には、有価証券等の価格は下落し、基準価額の下落要因となる可能性があります。
カントリーリスク	投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化などにより市場に混乱が生じた場合、または取引に対して新たな規制が設けられた場合には、方針に沿った運用が困難となり、基準価額が下落することがあります。特に、新興国への投資には、先進国と比較して政治・経済および社会情勢の変化が組入銘柄の価格に及ぼす影響が相対的に高い可能性があります。
流動性リスク	時価総額が小さい、取引量が少ないなど流動性が低い市場、あるいは取引規制などの理由から流動性が低下している市場で有価証券等を売買する場合、市場の実勢と大きく乖離した水準で取引されることがあり、その結果、基準価額の下落要因となる可能性があります。
ヘッジファンドの運用手法に係るリスク	投資対象ファンド(投資信託証券)においては、直接もしくは実質的に現物有価証券、デリバティブや為替予約取引などの買建てや売建てによりポートフォリオを組成することがあり、買い建てている対象が下落した場合もしくは売り建てている対象が上昇した場合に損失が発生し、当ファンドの基準価額が影響を受け、投資元本を割り込むことがあります。また、投資対象ファンド(投資信託証券)の純資産総額を上回る買建て、売建てを行う場合があるため、投資対象ファンド(投資信託証券)の基準価額は現物有価証券に投資する場合と比べ大きく変動することがあり、投資元本を割り込むことがあります。また、ヘッジファンドのパフォーマンスは、通常、運用者の運用能力に大きく依存することになるため、市場の動向に関わらず、損失が発生する可能性があります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

GCI エンダウメントファンド（成長型／安定型） 追加型投信／内外／資産複合

設定日 : 2015年 9月25日
作成基準日 : 2019年 1月31日
決算日 : 毎年9月25日
(休業日の場合は翌営業日)
信託期間 : 原則として無期限

投資リスク

その他の留意点

●収益分配金に関する留意事項

分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は、前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

●当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。

リスクの管理体制

運用リスクの管理については、運用部門から独立したリスク・マネジメント・グループが日々運用状況の分析およびモニタリングを行い、原則として週次で開催される運用リスク管理会議にて運用リスクの適切性を検証・評価し、リスク管理会議および運用政策会議に報告されます。また、問題が生じた場合には速やかに臨時で招集される運用政策会議に報告が行われ、その対応策が検討・決定される体制となっています。

事務リスク等の管理については、原則として月次で開催される事務リスク等管理会議において、運用に係る業務運営の適切性が検証され、リスク管理会議に報告される体制となっています。

そして、リスク管理会議において、各リスクの発生の有無・状況の把握、対応方針の検討・決定および進捗状況の管理などを行い、重要な事項はさらに運用政策会議に報告される体制となっています。

GCI エンダウメントファンド（成長型／安定型）

追加型投信／内外／資産複合

設定日 : 2015年 9月25日
 作成基準日 : 2019年 1月31日
 決算日 : 毎年9月25日
 (休業日の場合は翌営業日)
 信託期間 : 原則として無期限

手続・手数料等

お申込みメモ

購 入 単 位	販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
購 入 価 額	購入申込受付日の翌々営業日の基準価額とします。 (ファンドの基準価額は1万口あたりで表示しています。)
購 入 代 金	販売会社が定める期日までにお支払いください。
換 金 単 位	販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
換 金 価 額	換金申込受付日の翌々営業日の基準価額から信託財産留保額を控除した額とします。
換 金 代 金	原則として、換金申込受付日から起算して7営業日目から販売会社を通じてお支払いします。
申 込 締 切 時 間	原則として午後3時までに販売会社が受け付けた分を当日のお申込み分とします。
購 入・換 金 の 申 込 受 付 不 可 日	ニューヨークの銀行休業日またはニューヨーク証券取引所の休業日 ※詳しい申込受付中止日については、販売会社または委託会社にお問い合わせください。
購 入 の 申 込 期 間	2018年12月26日から2019年6月25日まで ※申込期間は、上記期間満了前に有価証券届出書を提出することによって更新されます。
換 金 制 限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口解約には別途制限を設ける場合があります。
購 入・換 金 申 込 受 付 の 中 止 お よ び 取 消 し	金融商品取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受け付けた購入・換金のお申込みを取り消すことがあります。
信 託 期 間	原則として無期限(2015年9月25日設定)
繰 上 償 還	受益権の総口数が10億口を下ることとなった場合などは、償還となる場合があります。
決 算 日	毎年9月25日(休業日の場合は翌営業日)
収 益 分 配	年1回、毎決算時に委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して分配金額を決定します。 収益分配金の受取方法により、「一般コース」と「自動けいぞく投資コース」の2つの申込方法があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
信 託 金 の 限 度 額	各ファンドについて10兆円
公 告	原則として電子公告の方法により行い、委託会社のホームページにて行います。 URL : https://www.gci.jp
運 用 報 告 書	毎決算時および償還時に交付運用報告書を作成し、販売会社を通じて知れている受益者に交付します。
ス イ ッ チ ン グ	販売会社によっては、各ファンド間でスイッチングが可能です。 ※スイッチングの際には換金時と同様に換金されるファンドに対して税金などをご負担いただきます。 詳しくは販売会社にお問い合わせください。
課 税 関 係	課税上は株式投資信託として取り扱われます。 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度(NISA) および未成年者少額投資非課税制度(ジュニアNISA)の適用対象です。 配当控除・益金不算入制度の適用はありません。

GCI エンダウメントファンド（成長型／安定型）

追加型投信／内外／資産複合

設定日 : 2015年 9月25日
 作成基準日 : 2019年 1月31日
 決算日 : 毎年9月25日
 (休業日の場合は翌営業日)
 信託期間 : 原則として無期限

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用					
購入時手数料	購入申込受付日の翌々営業日の基準価額に 1.08% (税抜1.0%) を上限として、販売会社が定める率を乗じて得た額とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。		購入時手数料は、商品説明、募集・販売の取扱事務などの対価として、販売会社にお支払いいただくものです。		
信託財産留保額	換金申込受付日の翌々営業日の基準価額に 0.1% の率を乗じて得た額を、ご換金時にご負担いただきます。				
投資者が信託財産で間接的に負担する費用					
運用管理費用 (信託報酬)	純資産総額に対し 年率0.702% (税抜0.65%) 以内 運用管理費用(信託報酬)は毎日計算し、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末または信託終了のときに信託財産から支払われます。信託報酬率の配分はファンドの純資産総額の残高に応じて変更します。 信託報酬の配分ならびにこれらに対価とする役務の内容は以下のとおりです。				
	純資産総額	運用管理費用 (信託報酬)	委託会社	販売会社	受託会社
	～500億円以下部分	0.702% (税抜0.65%)	0.324% (税抜0.3%)	0.324% (税抜0.3%)	0.054% (税抜0.05%)
	500億円超～ 1,000億円以下部分	0.6264% (税抜0.58%)	0.2916% (税抜0.27%)	0.2916% (税抜0.27%)	0.0432% (税抜0.04%)
	1,000億円超部分～	0.5508% (税抜0.51%)	0.2592% (税抜0.24%)	0.2592% (税抜0.24%)	0.0324% (税抜0.03%)
	役務の内容	運用管理費用(信託報酬)=運用期間中の基準価額×信託報酬率	委託した資金の運用、基準価額の算出、開示資料の作成など	購入後の情報提供、運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、各種事務手続きなど	信託財産の管理、委託会社からの指図の実行など
投資対象ファンド(投資信託証券)における運用報酬等： 年率0.481%～0.494%程度 ※当ファンドにおいては成功報酬はかかりませんが、指定投資信託証券においては、上記の運用報酬等の他に成功報酬がかかる場合があります。 実質的な負担： 年率1.183%～1.196% (税抜1.131%～1.144%)程度 ※当ファンドの運用管理費用(信託報酬)に投資対象ファンド(投資信託証券)の運用報酬等を合わせた、投資者が実質的に負担する額の合計です。 ※投資対象ファンド(投資信託証券)における運用報酬等ならびに実質的な負担の値はあくまで目安であり、指定投資信託証券の実際の組入れ状況等により変動する場合があります。					
その他の費用・手数料	<売買委託手数料など> 有価証券売買時の売買委託手数料、立替金の利息、ファンドに関する租税などが信託財産から支払われます。これらの費用は運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することができません。 <信託事務の諸費用> 監査費用、印刷費用、計理業務およびこれに付随する業務に係る費用などの諸費用が信託財産の純資産総額の年率0.1%を上限として日々計上され、毎計算期間の最初の6ヶ月終了日および毎計算期末または信託終了のときに信託財産から支払われます。				

※投資者の皆さまにご負担いただく手数料等の合計額については、当ファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

GCI エンダウメントファンド（成長型／安定型）

追加型投信／内外／資産複合

設定日 : 2015年 9月25日
 作成基準日 : 2019年 1月31日
 決算日 : 毎年9月25日
 (休業日の場合は翌営業日)
 信託期間 : 原則として無期限

委託会社・その他の関係法人の概要

委託会社

株式会社GCI アセット・マネジメント

[ファンドの運用の指図を行う者]

金融商品取引業者：関東財務局長（金商）第436号

加 入 協 会：一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人投資信託協会

照会先

電 話 番 号 03（3556）5040（営業日の9:00～17:00）

ホ ー ム ペ ー ジ <https://www.gci.jp>

受託会社

三菱UFJ信託銀行株式会社

(再信託受託会社：日本マスタートラスト信託銀行株式会社)

[ファンドの財産の保管及び管理を行う者]

販売会社

金融商品取引業者等の名称		登録番号	日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	日本商品先物取引協会
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第195号	○	○	○	○	○
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第44号	○		○	○	
株式会社新生銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第10号	○		○		
高木証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長（金商）第20号	○				
三田証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第175号	○				
共和証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第64号	○	○			
長野證券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第125号	○				
株式会社栃木銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第57号	○				
株式会社イオン銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第633号	○				
百五証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長（金商）第134号	○				

- ・ お申込み、投資信託説明書（交付目論見書）のご請求は、販売会社へお申し出ください。
- ・ 販売会社は今後変更となる場合があります。

GCI エンダウメントファンド（成長型／安定型）

追加型投信／内外／資産複合

設定日 : 2015年 9月25日
作成基準日 : 2019年 1月31日
決算日 : 毎年9月25日
(休業日の場合は翌営業日)
信託期間 : 原則として無期限

＜ご留意事項＞

- 当資料は、株式会社GCIアセット・マネジメント（以下「当社」といいます）が、当ファンドの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。
- 当ファンドのお申込みにあたっては、必ず最新の投資信託説明書（交付目論見書）の内容をご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料記載のデータや見通し等は、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報をもとに作成しておりますが、正確性、適時性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は、作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料に記載されている個別の銘柄・企業名については、参考として記載されたものであり、その銘柄または企業の株式等の売買を推奨するものではありません。
- 各指数に関する著作権等の知的財産、その他一切の権利は、各々の開発元または公表元に帰属します。
- 当資料に関する一切の権利は、引用部分を除き当社に属し、いかなる目的であれ当資料の一部または全部の無断での使用・複製はできません。
- 投資信託は預金保険制度の対象ではありません。また、銀行が取り扱う投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。

Morningstar Award “Fund of the Year 2016” は過去の情報に基づくものであり、将来のパフォーマンスを保証するものではありません。また、モーニングスターが信頼できると判断したデータにより評価しましたが、その正確性、完全性等について保証するものではありません。著作権等の知的所有権その他一切の権利はモーニングスター株式会社並びにMorningstar, Inc. に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。

当賞は国内追加型株式投資成長型 部門は、2016年12月末において当該部門に属するファンド253本の中から選考されました。

Morningstar Award “Fund of the Year 2017” は過去の情報に基づくものであり、将来のパフォーマンスを保証するものではありません。また、モーニングスターが信頼できると判断したデータにより評価しましたが、その正確性、完全性等について保証するものではありません。著作権等の知的所有権その他一切の権利はモーニングスター株式会社並びにMorningstar, Inc. に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。

当賞は国内追加型株式投資信託を選考対象として独自の定量分析、定性分析に基づき、2017年において各部門別に総合的に優秀であるとモーニングスターが判断したものです。バランス(成長)型 部門は、2017年12月末において当該部門に属するファンド808本の中から選考されました。

Morningstar Award “Fund of the Year 2018”は過去の情報に基づくものであり、将来のパフォーマンスを保証するものではありません。また、モーニングスターが信頼できると判断したデータにより評価しましたが、その正確性、完全性等について保証するものではありません。著作権等の知的所有権その他一切の権利はモーニングスター株式会社並びにMorningstar, Inc. に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。

当賞は国内追加型株式投資信託を選考対象として独自の定量分析、定性分析に基づき、2018年において各部門別に総合的に優秀であるとモーニングスターが判断したものです。バランス型 部門は、2018年12月末において当該部門に属するファンド1,030本の中から選考されました。